

第四章 安息日と主の日

I 旧約聖書における安息日

神はご自分の創造の働きに始まって、あらゆる時の7分の1を聖別されることをよしとされた。イスラエルに対して神は7日目を休息の日として規定された。そして7年目を土地の休息の年、50年目は7の7倍としてヨベルの年となる。

アダムからモーセに至る時期には神が創造の6日間の後に休まれたと記している。(創世記2:2、出エジ20:10、11)しかし、イスラエルがエジプトから脱出するまでは、人が安息日を守るように命じられたり、守ったという記録はない。

ヨブ記は族長たちの宗教生活と体験を明らかにしてくれる。そこには安息日の義務について何の言及もない。

モーセからキリストまでの期間は、安息日は正しく守られていた。それは律法として定められていた。安息日は神とイスラエルの間のしるしで、異邦人に課せられたことはなかった。(出エジ31:12-17)主は安息日が人の益のためであって、人が安息日の犠牲にされてはならないことを指摘なさった。(マルコ2:27)

II 現在の教会時代における安息日

キリスト復活の後に信者が安息日を守ったという記録はない。安息日を破ることは、人が犯すであろう可能性のある罪のリストに加えられていない。以下の聖句を考察すると、クリスチャンと安息日の関係がさらに明白になる。

ガラテヤ4:9-10は、そのような日に固執することを非難している。

ヘブル4:1-13は、安息日を、信者が救われた時に入る休息の一つの予型として考察している。

コロサイ2:16-17は、神の子とされた者たちに、安息日のことについて批評されないようにと明白に指示している。

ローマ14:5は、信者が「自分の心の中に確信を」持つならば、すべての日を同じように考えることもできると宣言している。

III 次に来る時代における安息日

預言は安息日を次に来る王国時代の重要な特徴としてみている。(イザヤ66:23)

IV キリストの復活と週の第一日

週の初めの日はキリストの復活以来、現在に至るまで教会によって祝われてきた。しかし、この日が安息日の性格を与えられ、その律法によって支配されるようになると混乱が生じてくる。主の日は新しい創造という観点から考えなければならない。

V 新しい創造

教会時代における神の目的は、教会を召し出すことである。この贖われた集団が新しい創造、天上の民である。(Ⅱコリ5:17-18)安息日が旧創造を記念するために制定されたように、主の日は新創造を祝うものである。

VI 主の日

クリスチャンが主の日を守る理由は幾つかある。

- 1 恵みのもとで新しい日は預言され、定められている。(詩篇 118：22-24)
- 2 週の初めの日を守ることはさまざまな出来事によって示されている。
 - ①その日、キリストはよみがえられた。(マタ 28：1)
 - ②その日、主は初めて弟子たちと新しい交わりをされた。(ヨハ 20：19)
 - ③その日、主は弟子たちに指示を与えられた。(ルカ 24：13-45)
 - ④その日、主は初穂として天に昇られた。(ヨハ 20：17)
 - ⑤その日、主は弟子たちに息を吹きかけられた。(ヨハ 20：22)
 - ⑥その日、御霊が天から下った。(使徒 2：1-4)
 - ⑦その日、パウロはトロアスで説教した。(使徒 20：6-7)
 - ⑧その日、信者たちはパンを裂きに集まった。(使徒 20：6-7)
 - ⑨その日、彼らは献金を手元にたくわえた。(I コリ 16：2)
 - ⑩その日、キリストはパトモスでヨハネに現れた。(黙示 1：10)
- 3 8日目は割礼の日であった。(コロ 2：11)
- 4 新しい日は恵みの日である。安息日は6日間の労働の休息として与えられた。しかし、主の日は働きを行う他の日のすべてに先立っている。最初の日の祝福のうちに一週間の働きと奉仕にあたるのである。
- 5 新しい日は神に祝福されてきた。
- 6 新しい日は個々の信者だけにゆだねられている。
- 7 週の初めの日を守るようにとの命令は与えられていない。それは義務からではなく、恵みのもとにあるものとして、すすんで捧げられるものである。
- 8 主の日を守る姿勢は他のすべての日にも適用されうる。主の日の特徴である礼拝、喜び、奉仕などは可能なかぎり毎日の体験となるべきである。